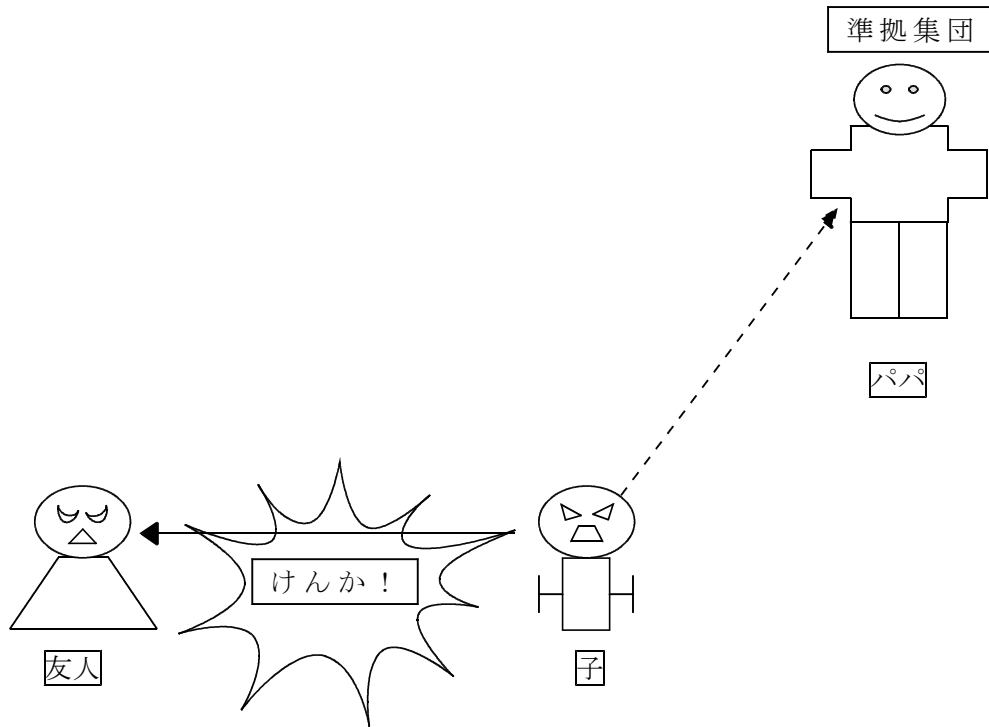


<図A> パースペクティブ 三項関係

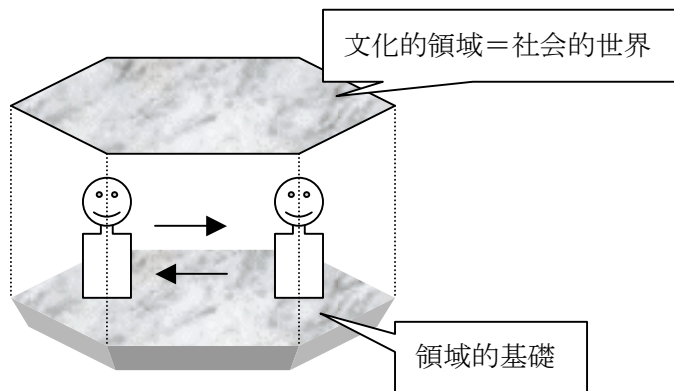


パパ → 子 “やられたらやり返せ” というパースペクティブの獲得

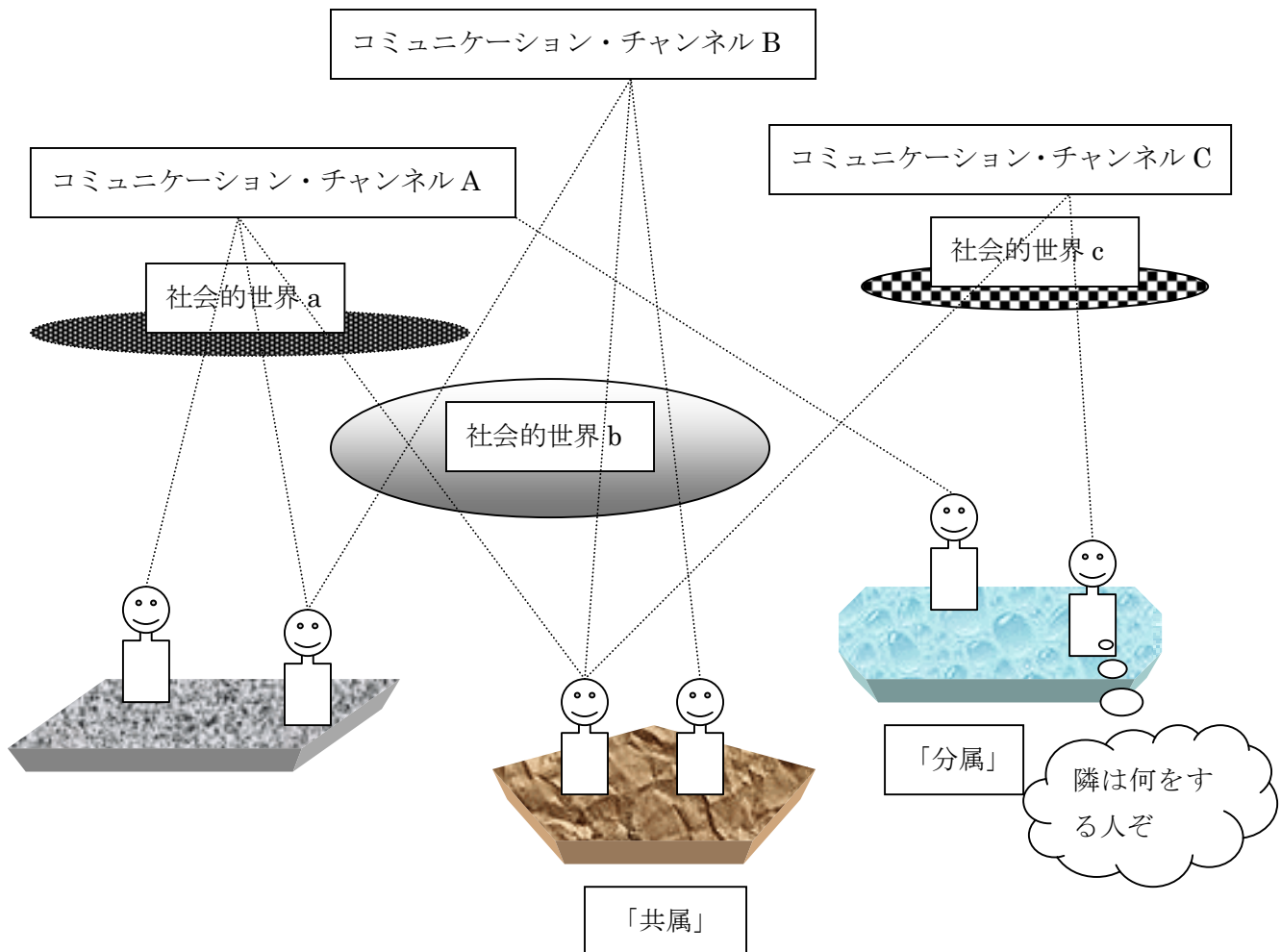
子 → 友人 パースペクティブの実践  
それをパパの前で行う

↓  
「パパ」を自己評価の基準としている。

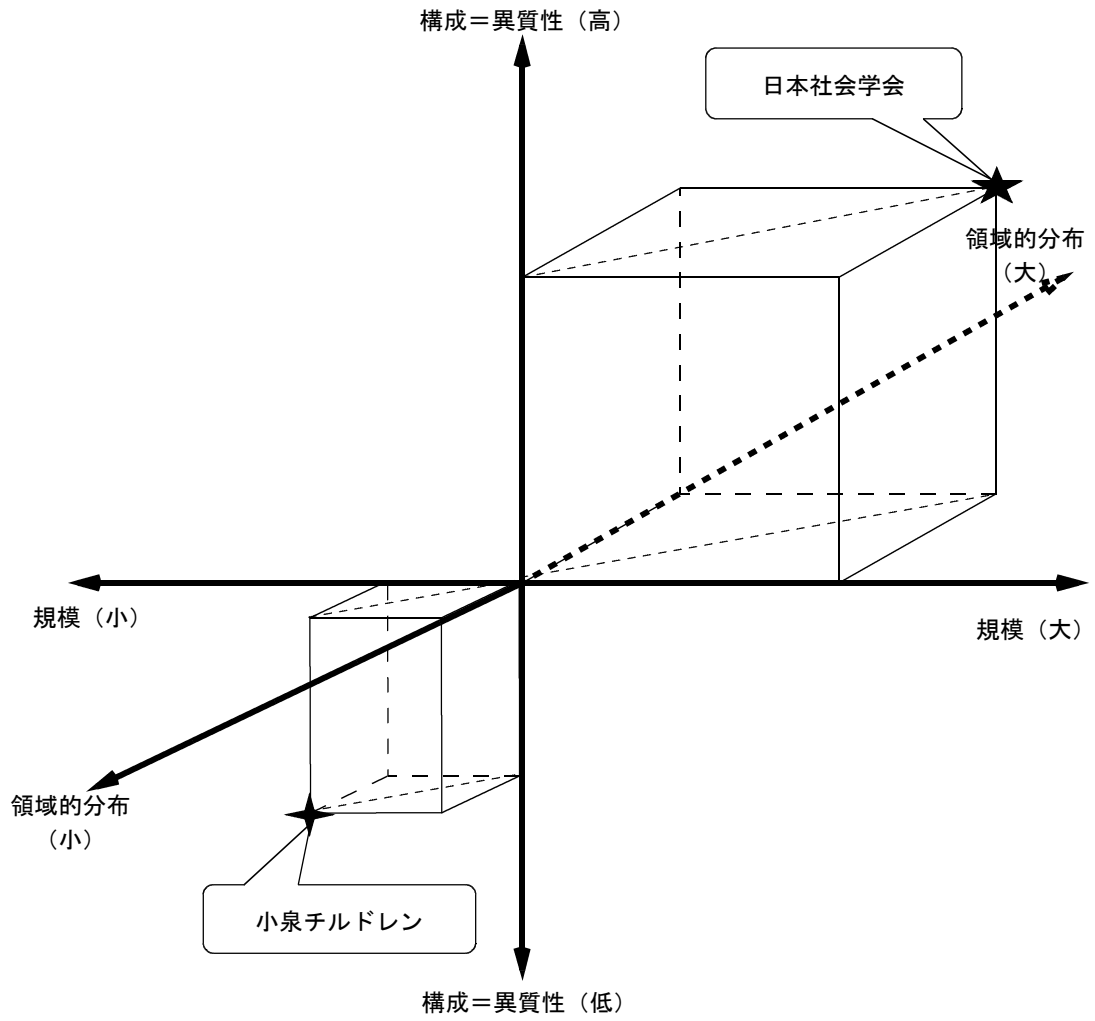
<図B> 領域的基礎と文化的領域



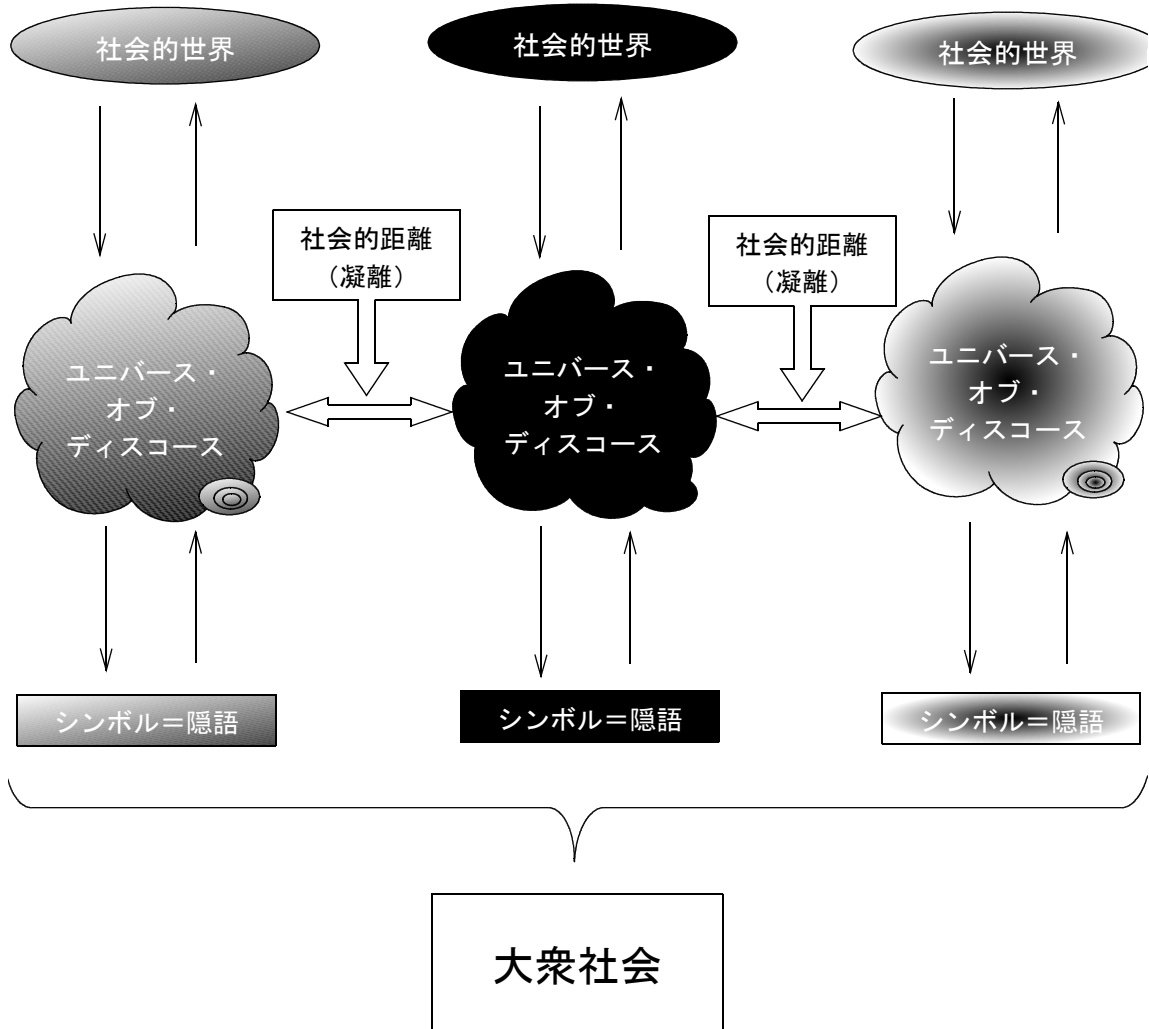
ところが、近代大衆社会においては、以下のように領域的基礎がほとんど有意義性を持たない。まさに「シカゴ的世界」(吉原直樹、1989年、「シカゴ・ソシオロジー再考のために」、『社会学史研究』第11号、日本社会学史学会、21-37頁)という表記がふさわしい状態である。また、近代大衆社会のコミュニケーション・チャンネルには、「個人的繋がり」も含めなければならない。



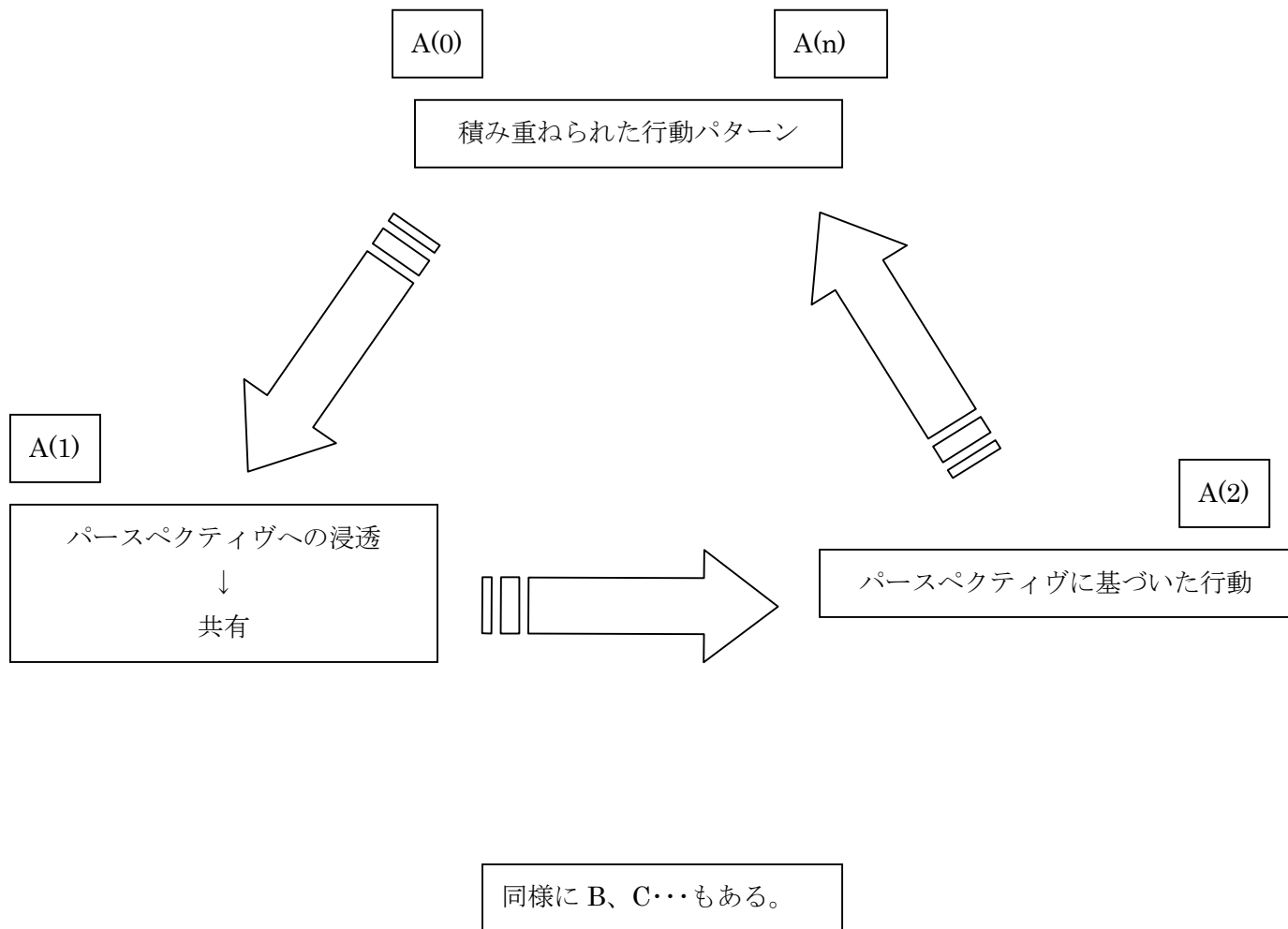
<グラフ>



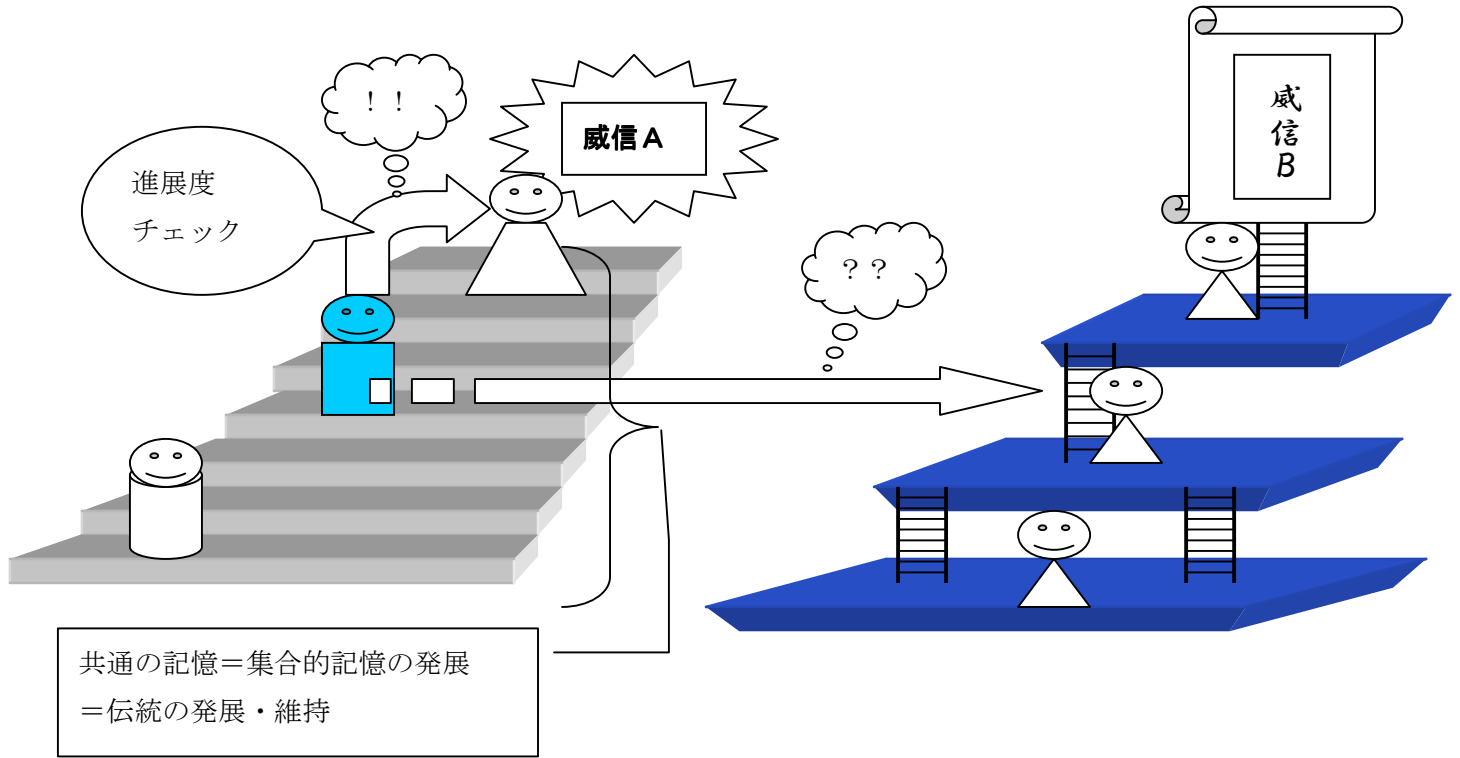
<図C> シンボル——ユニバース・オブ・ディスコース——社会的世界



<図D> メカニズム



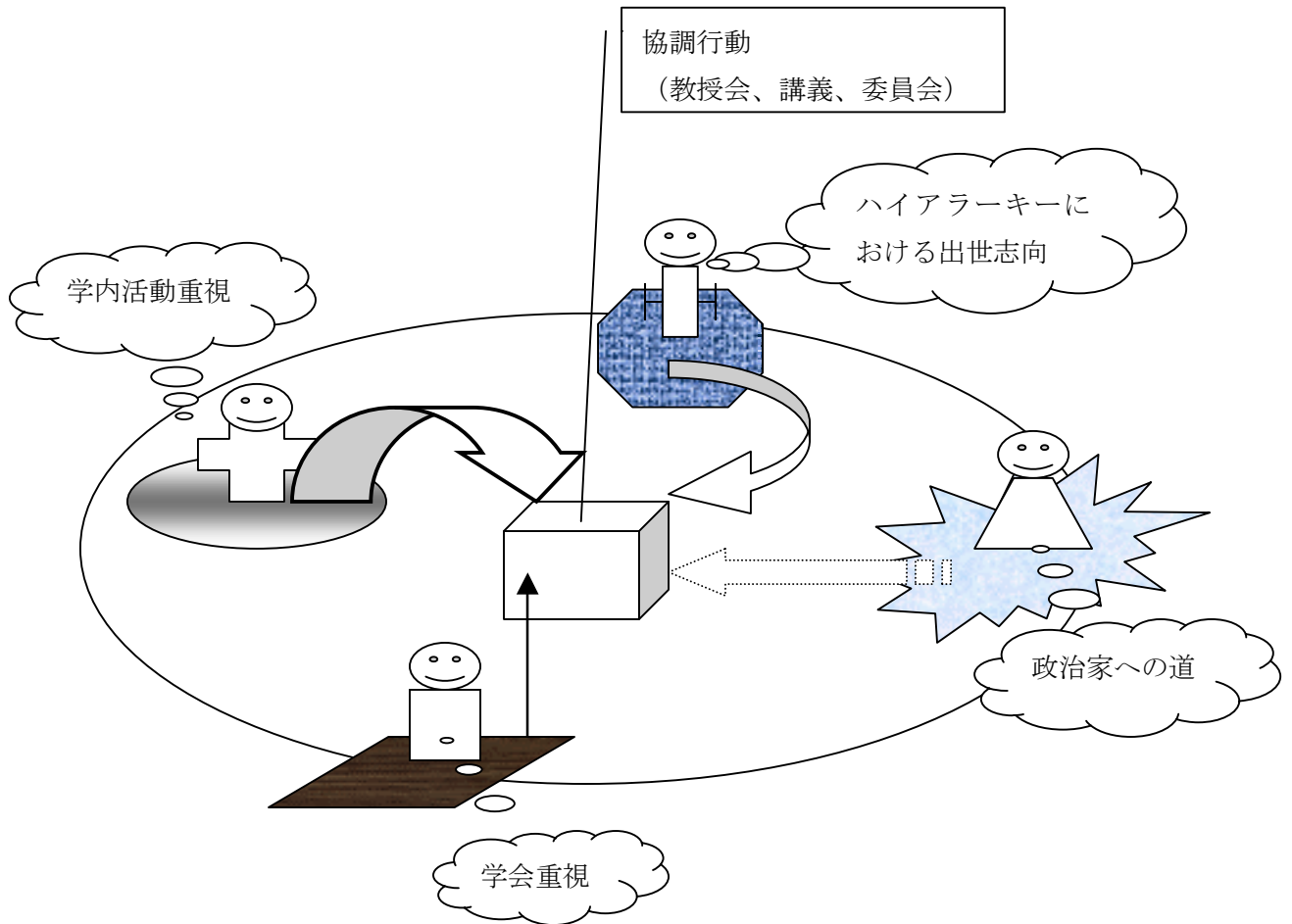
<図E> 威信をつかむための階梯



<図F>

大学のコミュニティ

=マッキーヴァーの「アソシエーション」が「コミュニティ」化したもの？



※ 各々が立っている場所の色、形の違いは、  
社会的世界の違い、すなわち相互不理解の状況を意味する。

<図G> コミュニケーション・チャンネルへの参与の範囲

